



北 総 鉄 道 株 式 会 社
千葉ニュータウン鉄道株式会社

安全報告書2021



安全報告書 2021 目次

1. ご利用の皆様へ	1
2. 北総鉄道路線図・成田スカイアクセス分界概要	2
• 北総鉄道路線図	
• 成田スカイアクセス分界	
3. 安全に関する基本方針・安全重点施策	3
• 安全に関する基本方針	
• 安全重点施策	
4. 安全管理体制と安全管理方法	5
• 安全管理体制	
• 安全管理方法	
5. 列車の安定輸送を実現するための取り組み	9
6. テロ・防犯対策の取り組み	12
7. 安全に対する取り組み	14
• 安全確保のための措置（設備）	
• 駅の安全対策	
• 車両の安全対策	
• 災害対策	
• 災害発生時の取り組み	
• 安全に関する教育	
• 乗務員の健康状態の確認	
• 事故等の発生状況	
8. 新型コロナウイルス感染予防に対する取り組み	27
9. ご利用のお客様へのお願い	28
• 電車を安全にご利用いただくために	

1. ご利用の皆様へ



第1種及び第2種鉄道事業者
北総鉄道株式会社

取締役社長 室谷 正裕

平素より北総鉄道をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

当社は、鉄道事業の運営にあたり、最も重要である「安全・安定輸送」を絶えずお客様にご提供できるよう、全社員が輸送の安全確保を最大の使命と認識し日々の業務に取り組んでおります。

2020年度の安全に関する施策につきましては、2020年6月に京成電鉄青砥駅構内で発生した当社所属車両の列車脱線事故を踏まえた当面の対策を講じるとともに、レール等の更新や全線C-ATS化(高機能の自動列車停止装置)、列車無線のデジタル化の推進、また、より実践的な教育や訓練の実施など、ハード・ソフト両面から一層の保安度の向上や異常時における対応力の強化に取り組んでまいりました。

また、新型コロナウイルス感染症対策では、引き続き、社員の感染予防に万全を期し、安定輸送の維持に努めるとともに、お客様に安心して当社線をご利用いただけるよう、駅施設や電車内の消毒、抗菌・抗ウイルス加工など感染防止対策に取り組んでおります。

2021年3月、当社は都心直通30周年を迎えることができました。日頃より当社線をご利用の皆様にご感謝を申し上げますとともに、これからもより安全で安心な鉄道を目指し、また、沿線地域のさらなる発展に貢献できるよう、京成電鉄及び千葉ニュータウン鉄道と連携し、全力で取り組んでまいります。

本報告書は、当社における安全への取り組みについて、皆様にご理解いただくために作成したものです。是非、ご一読いただき、ご意見やご感想をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。



第3種鉄道事業者
千葉ニュータウン鉄道株式会社

取締役社長 田中 亜夫

平素より千葉ニュータウン鉄道をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

当社は、北総線の小室駅～印旛日本医大駅間12.5^{km}の鉄道施設と、40両の車両を保有する第3種鉄道事業者であり、それらの設備を第2種鉄道事業者に賃貸しております。

当社は京成グループの一員として、グループ経営理念である「お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを安全・快適に提供する」ことを目標とし、グループ行動指針に掲げる「安全・安心を第一に行動する」ことを実践しております。

今後も、北総鉄道と連携し、輸送サービスの向上ならびに千葉ニュータウンのさらなる発展に貢献できるよう、輸送の安全確保に取り組んでまいります。

3. 安全に関する基本方針・安全重点施策

安全に関する基本方針

お客様に安全・迅速・快適に当社線をご利用いただけるよう、私たちは「京成グループ経営理念」と「京成グループ行動指針」に基づき、安全を最優先とする体制の整備に努めるとともに、鉄道施設、車両及び社員を総合的に活用して輸送の安全を確保します。

京成グループ経営理念

京成グループは、お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを、安全・快適に提供し、健全な事業成長のもと、社会の発展に貢献します。

京成グループ行動指針



安全方針

安全第一の意識を持って事業活動を行える体制の整備に努めます。

1. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程を遵守し、厳正・忠実に職務を遂行します。
2. 事故・災害等が発生したときは、速やかに安全適切な処置をとります。
3. 常に向上心を持ち、必要な工夫・改善に努め、安全且つ快適な環境を提供します。

安全重点施策

輸送の安全に関する基本方針に基づき、輸送の安全の確保を最優先に鉄道諸設備の整備を推進するとともに、安全に対する取り組みや施策の継続的な改善を図り、社内の管理体制と各部門間での連携を強化し、今後とも安全・安定輸送の確保に向け努力してまいります。

2020年度安全重点施策

(1) 北総線及び成田スカイアクセスの安全・安定輸送の継続

- ・京成電鉄との連携の強化

(2) 安全管理体制の更なる強化

- ・ヒューマンエラー撲滅への取り組み強化
- ・安全に関する内部監査の充実
- ・協力会社と一体となった安全管理の強化
- ・お客様と連携した安全対策の充実(声かけサポート運動など)
- ・社員相互間のコミュニケーションの強化

(3) 駅ホーム安全対策の着実な推進

- ・高速列車通過時の駅ホーム監視の徹底

(4) 鉄道施設の安全性向上及び老朽化対策の推進

- ・列車無線デジタル化・C-ATS化等工事の推進
- ・自然災害対応への施設の計画的更新
- ・老朽化設備の計画的な更新

(5) 鉄道テロ行為及び列車妨害行為への対応強化

- ・オリンピック・パラリンピックの開催に伴うテロ対策の強化
- ・巡回・点検等の強化
- ・関係機関との連絡、連携体制の強化
- ・教育・訓練の充実

(6) 異常時の対応強化

- ・早期復旧に向けての管理体制の整備
(仮復旧までの時間の最短化を図る)
- ・災害・事故等事例の検証と対策

(7) 新型コロナウイルス等感染症対策の徹底

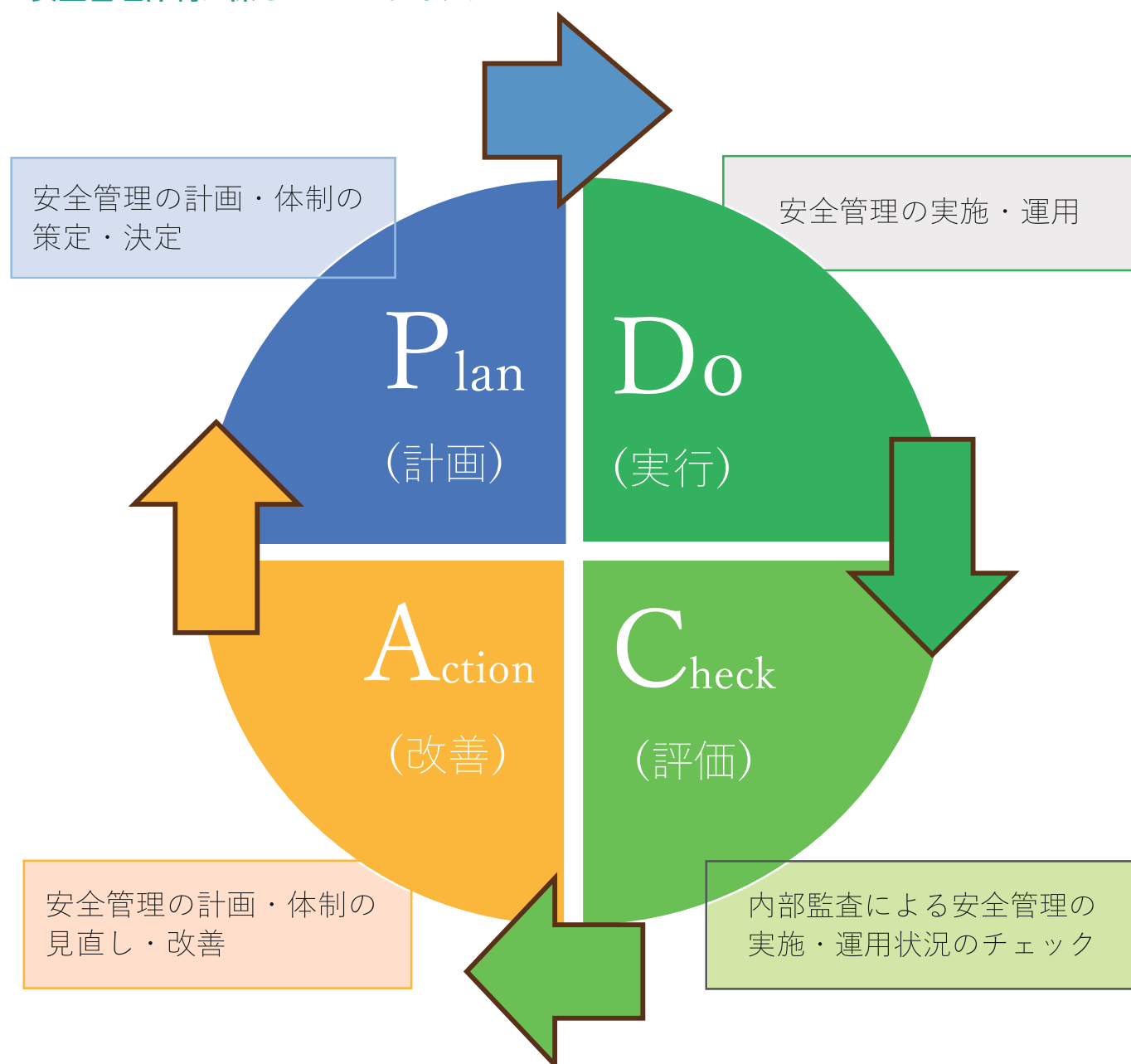
- ・新型コロナウイルス等感染予防等対策の徹底

役 職	役 割
社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う
安全統括管理者（施設管理部長）	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
施設管理部長	安全統括管理者の指揮の下、鉄道施設に関する事項を統括する
総務部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務等に関する事項を統括する

安全管理方法

安全管理体制に基づき、経営トップの意見をはじめとする鉄道の安全に関する情報の共有化を図り、本社と現場が一体となり、継続的な「PDCAサイクル」によって随時見直しを行っています。また、安全推進担当を中心に各部門への安全に関する内部監査を実施するとともに、安全に関する様々な施策等の討議を目的とした安全推進会議の実施など、安全管理体制の強化に取り組んでいます。

・安全管理体制に係るPDCAサイクル



・安全に関する内部監査の実施

日本民営鉄道協会主催の「運輸安全マネジメント内部監査員研修」を修了した監査員による内部監査を毎年継続的に実施し、安全管理体制が適切かつ有効に運用されているかを検証しています。

この安全に関する内部監査は、経営トップの社長、安全統括管理者をはじめ、運輸・技術部門（現業を含む）ならびに一般管理部門を対象に実施しております。

また、京成グループの鉄道各社が同席し、監査終了後に意見交換を行う等、グループ相互間での内部監査体制の充実を図っています。



社長へのインタビュー



運輸部運転課へのインタビュー

・安全推進会議

安全推進会議とは、安全統括管理者を議長に、運輸・技術部門の管理職を構成メンバーとして開催される月例会議で、安全に関する様々な施策等（事故等の報告・分析及び再発防止策の討議・他社事故事例の情報共有等）について話し合い、事故の撲滅を図り、安全の確保に努めています。



安全推進会議

・他社の事故事例の対応

運輸安全委員会から発表される事故等調査報告書や他社で発生した事故事例について、関係部署と情報共有を図り、速やかに当社の状況を確認し、類似事故の防止に努めるとともに、社員の安全意識の向上を図っています。

・ヒヤリ・ハット

当社では、日頃から社員・協力会社に対してヒヤリ・ハット情報の提供を呼びかけ、収集に努めております。また、収集したヒヤリ・ハット情報は、毎月実施する安全推進会議において情報共有を行うとともに、一覧にまとめ各職場に配布し、全社員に周知を図り、類似する事象が起因となる事故等の未然防止に役立てています。

【ハインリッヒの法則】

1件の重大な事故・災害の背後には、29件の軽微な事故・災害があり、更にその背後には300件のヒヤリ・ハット（作業中等に「ヒヤリとしたこと」や「ハットとしたこと」を指し、事故に至る可能性のあった事象）があるという法則です。



・社長、安全統括管理者の職場内巡視

春の全国交通安全運動・夏季輸送安全総点検・秋の全国交通安全運動・年末年始輸送安全総点検等の期間に、社長、安全統括管理者が職場や作業現場を巡視し、現状を把握するとともに意見交換を通じ安全に関する取り組みの確認及び安全意識の高揚を図っています。



社長巡視（運輸指令所）



安全統括管理者巡視（施設区）

・コミュニケーションの強化と職場環境向上への取り組み

安全統括管理者と運輸部・技術部の現業長との意見交換会や本課と現業長の定例会議（課内会議）を開催し、現状における各現場での取り組みや課題などを話し合い、安全に関する共通認識を持ち、またその内容について各職場に水平展開し、各職場のコミュニケーション強化と職場環境の向上に取り組んでいます。



現業長意見交換会

5. 列車の安定輸送を実現するための取り組み

・ 運輸指令所

運輸指令所では列車の運行状況をリアルタイムに表示する運行表示盤を設置し、円滑な運行が行なえるよう監視を行っています。



社員の声

運輸指令所 司令 石山 鉄也

私の所属する運輸指令所では、列車運行管理を主な業務としており、輸送障害発生時には運転整理や情報配信をはじめ、振替輸送の受委託など多岐にわたる業務を担い、これらの業務を行う際にはヒューマンエラーを防止するため、基本動作を励行するとともに、関係する係員間での確実な連携を図っております。

さらに、日頃から規程類の確認や異常時を想定した作業手順を研究し、訓練及び教育により知識技能の維持・向上に努め、異常時への備えを行っています。今後もさらなる安全・安定輸送を目指し、所員一同取り組んでまいります。



・ 車両、工務、電気の保守点検

【車両の保守点検】

車両の運行状況に応じ列車検査（10日を超えない期間で実施する検査）及び月検査（3か月を超えない期間ごとに実施する検査）を行っています。



床下機器類の点検



パンタグラフの点検

社員の声

車両課 車両区 五十嵐 継雄

私たち車両区は、月検査・列車検査等、規定に基づき保守・修繕業務及び限定運転士による車両の入換作業を実施しております。

安全作業を遂行するために作業前ミーティング、KYを活かした作業内容の再確認等を毎日行っており、ヒヤリハット報告、基本動作励行、確実な作業の実施を日々心掛け安全・安定輸送に努めております。

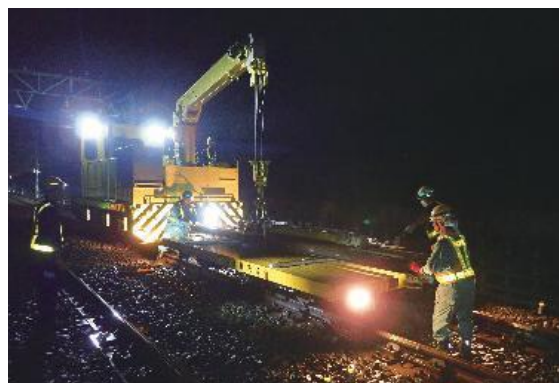
最後に、異常時等発生時に迅速な対応をするため、定期的に訓練を実施し、知識技能の向上を図っております。



【工務の保守点検】



レール測定



レール交換作業

線路やトンネル、駅などの鉄道構造物の保守、点検を行っています。

【電気の保守点検】



信号機の点検



電車線の点検

信号機などの保安設備、変電所等の電気設備の保守、点検を行っています。

社員の声

電気課 電気区 長島 法義

私たち電気区は、受変電・電線路・電灯・信号・通信の鉄道電気設備全般の保守管理及び工事を行っています。また一部の者はこれに加えて、電力司令兼任として電力需給業務にも携わっています。

これらの多岐にわたる業務を安全に遂行するため、メンバーひとりひとりの知識・技能向上はもちろんですが、人間の注意力を補完するための仕組みも積極的に取り入れています。電気設備の保守・工事においては手順書やチェックリストを整備して活用し、また電力指令業務においては計画停送電システムを活用して、ヒューマンエラーに起因する事故の防止に取り組んでいます。



・鉄道の安全を守る保守作業車



20t 軌道モーターカー



25t 積桁運搬車



マルチプルタイタンパー



ダンプトロリ



ATカート

6. テロ・防犯対策の取り組み

当社では鉄道におけるテロの未然防止対策として、駅構内及び列車内における不審者や不審物の早期発見に係るお客様への協力要請放送やポスターを掲出しています。また、警察・消防等と連携を取り、万一に備えてテロの被害を最小限にとどめるための取り組みについても実施しています。

・不審物発見時の対応訓練

テロ等発生時に対応する初期対応力向上を目的に、お客様救護、警察および関係箇所への連絡体制を確認し、実践に近い形での訓練を実施しました。



・テロ対策講演会

千葉県鎌ヶ谷警察署と連携し「テロ対策講演会」を開催して、防犯に対する理解と意識の高揚を図りました。



テロ対策講演会

・駅係員及び本社職員による巡回

警備腕章を着用して巡回を行い、不審者等の警戒のため「見せる警備」を実施しています。また、各運動期間等には駅構内および列車内において警備員による巡回警備を行っています。



・ 防犯カメラの設置

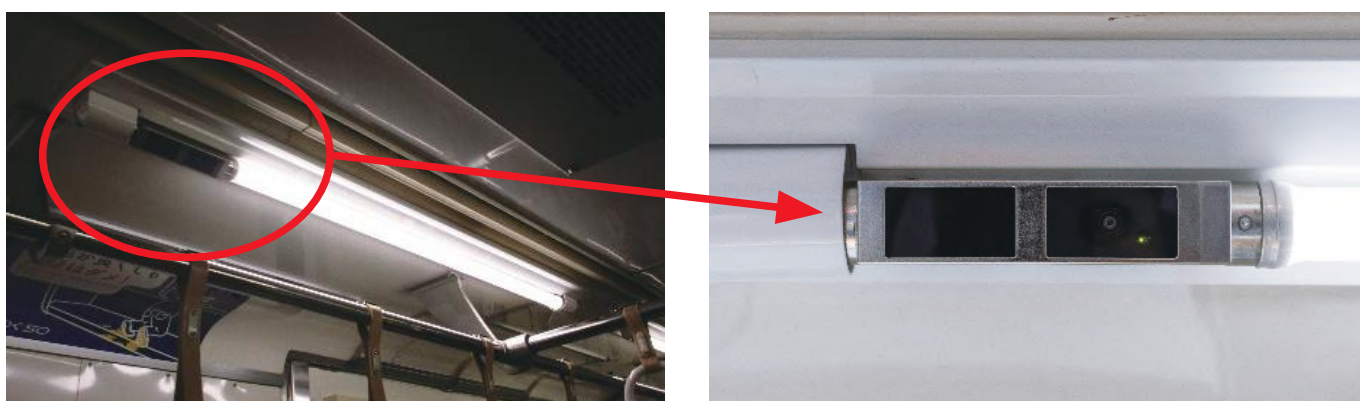
駅構内や車両基地等に防犯カメラを設置しています。

また、「防犯カメラ作動中」を表示し、テロや犯罪行為等の被害発生防止を図っています。



・ 車内防犯カメラの設置

車内における犯罪行為の未然防止のため、2019年度より車内防犯カメラの設置を推進しています。



・ 不審物(者)発見ワッペン・車両ステッカー

駅構内及び列車内における不審物(者)早期発見のため、お客様への協力依頼の啓発放送や駅表示器スクロール表示を実施している他、当社車両各乗降扉の扉ガラスに不審者発見時の鉄道係員への通報をお願いするステッカー(日本語・英語)を貼っています。また、委託業者に「不審物(者)の発見に協力しています」ワッペン着用を義務付け警備を強化し、鉄道テロの未然防止に取り組んでいます。



7. 安全に対する取り組み

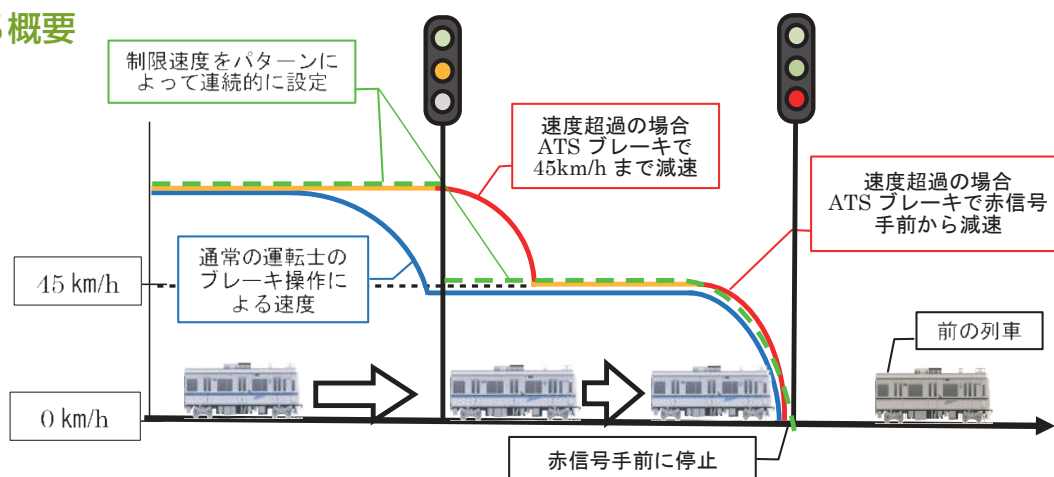
当社では輸送の安全確保を目的として、重要度の高いものから順に効果的かつ効率的に設備改良等を実施しています。2020年度においては、老朽化したレールの取替、高圧ケーブルの張替、変電所の設備更新を実施しました。

その他日常的に、法令に定められた点検周期や点検項目に基づき、鉄道施設及び車両について所定の機能を維持・発揮できるよう定期点検及び検査を実施し、安全で快適な環境を提供するため日夜整備に努めました。なお、線路巡回等により発見した設備の不備に対してはその都度補修を実施しました。

現在、列車の保安設備として、北総線の各連動駅（ポイントのある駅）構内に、高機能ATS（C-ATS）を導入していますが、更なる列車運行の安全性向上を目指し、連動駅構内以外の駅間においても全線C-ATS化整備を進めています。2019年度の京成高砂駅～矢切駅間のC-ATS化に続き、2020年度は矢切駅～東松戸駅間の切り替えが完了しました。

安全確保のための措置（設備）

・C-ATS概要



・列車無線デジタル化

更なる安全性向上を目的として、2018年度より、列車無線装置を現行のアナログ方式からデジタル方式へ変更するための改良工事を開始しており、2020年度より各編成に導入し、2022年度に全編成への導入完了を予定しています。これにより、運輸司令と複数列車の乗務員が同時に通話することが可能となり、運行異常時等における情報収集や伝達の迅速化が図られます。また、列車の乗務員用モニターに運行に関する情報を文字で表示することで、より正確な情報提供を行うことが可能となります。

・安全への投資

毎年度、下表の通り鉄道事業における安全対策に対して投資を行っています。

安全対策に対する設備投資金額

（単位：百万円）

	2018 年度実績	2019 年度実績	2020 年度実績
北総鉄道	1,156 [65%]	1,570 [77%]	989 [70%]
千葉ニュータウン鉄道	286 [71%]	452 [80%]	264 [79%]

[] 内は全体の鉄道事業設備投資額に対する安全関連設備投資額の割合

駅の安全対策

・列車非常停止装置

お客様が線路内に転落した時や線路内に障害物を発見した場合、お客様や係員がホーム上の「非常停止ボタン」を押すことにより、近くを走行中の列車の乗務員に異常を知らせ列車を自動的に緊急停止させます。また、お客様に非常停止ボタンの設置箇所が一目でわかるよう、赤白ゼブラテープや看板を設置するとともに使用方法についてのポスターを掲示しています。



・内方線付き点状ブロック

目の不自由なお客様がホームから転落するのを防止するため、全駅のホームに「内方線付き点状ブロック」を設置しています。点状ブロックの内側に線状の突起がついていることで、ホームの内外が判別できるようになっています。

・CPライン

ホーム上の安全を確保するため、視覚的・心理的にホーム縁端部に赤いラインを引き注意喚起を行い、電車との接触事故を防止することを目的としています。

・通過列車注意表示

駅ホームの狭小部床面に警戒ライン及び「列車に注意！」を表示し、お客様への注意喚起を行っています。また、必要な箇所に手すりを併設し、ホーム上のお客様の安全性の向上を図っています。



・車掌用ITV(車掌用監視モニター)

車掌が列車を出発させる際に、扉やホームの安全を確認するため、「車掌用ITV」を設置しています。



・青色照明の設置

自殺による死傷事故を防止するため、人の気持ちを落ち着かせる効果があるといわれている青色照明を設置しています。



秋山駅 青色照明

・ 駅施設のバリアフリー化

ご高齢者やお身体の不自由なお客様が安全・快適に駅施設をご利用いただけるよう、車いす対応のエレベーターや多機能トイレ等を設置しており、2020年度の大町駅に設置が完了したことにより全駅のバリアフリー化が完了しました。



エレベーター



多機能トイレ



車いす用スロープ

・ 目の不自由な方へのご案内

国土交通省の旅客施設における音声による移動支援方策ガイドラインに基づいて、お客様及び目の不自由なお客様を券売機、改札口、階段、エスカレーター、エレベーター、トイレ等へ音声で案内誘導するための音声誘導装置及び駅構内配置を示した触知図を全駅設置しています。



・ AED (自動体外式除細動器)

安全に安心してご利用いただける駅を目指し、各駅改札口付近にAEDを全駅に設置しています。なお、駅係員・乗務員においては応急手当や救命措置が適切に行えるよう普通救命講習等を受講しており、万が一の際は速やかな対応がとれるようにしています。

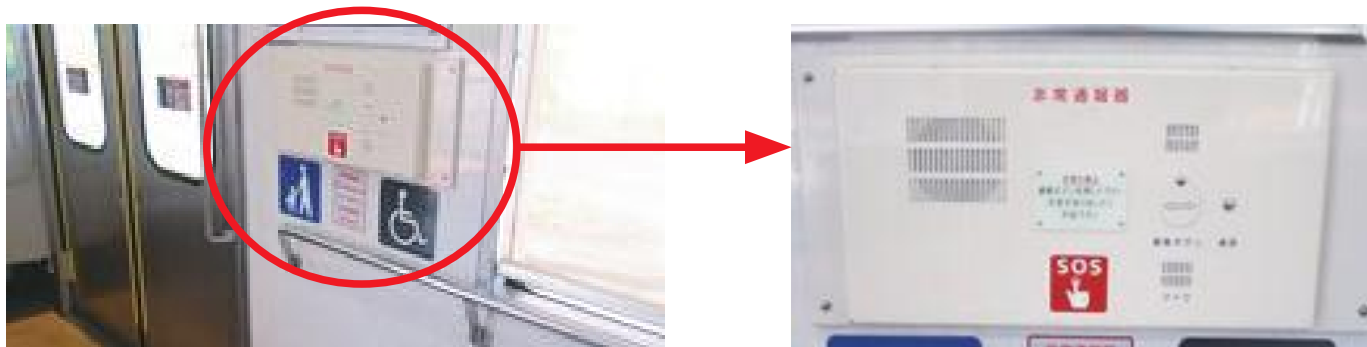


車両の安全対策



① 非常通報器

列車内で非常事態が発生した場合等に備え、乗務員に通報することができる非常通報ボタンを各車両に設置しています。



② 車いす、ベビーカースペースの設置

車いす・ベビーカーをご利用のお客様が混雑時にも利用できる専用スペースを当社の全ての編成に設置完了しました。



③ 車内案内表示装置



4 カ国語 (日本語・英語・中国語・韓国語) による行先や停車駅案内のほか、安全啓発に関するお知らせや事故災害等異常時の際の状況に応じた情報提供を2 カ国語 (日本語・英語) で表示できる機能を搭載しています。

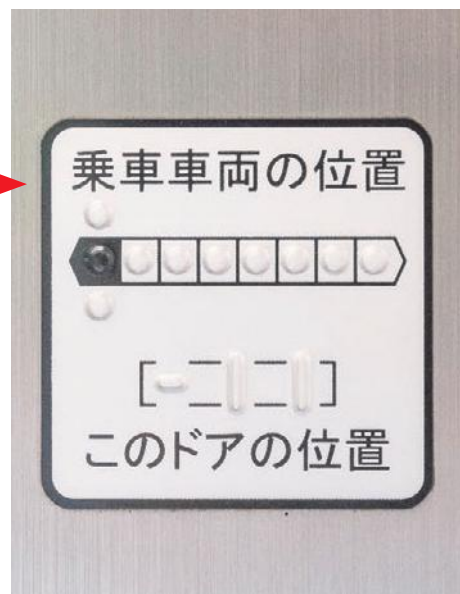
④ 乗降扉の注意喚起シール

ドア開閉時のお客様の引込み・挟まりを防止するため、各車両のすべての乗降扉の端部に扉を容易に認識できる注意喚起テープを貼付しています。



⑤ 車内点字案内表

目の不自由なお客様に対し、車内の乗車位置が確認できるよう、全車両のすべての扉に「乗車車両の位置」及び「ドアの位置」の点字表示を行っています。



・ 車内の4 カ国語放送

車内における成田空港方面への乗換案内をICレコーダーにより4 カ国語 (日本語・英語・中国語・韓国語) で行っています。また、事故発生時等に対応した放送も可能で異常時にも訪日外国人のお客様へスムーズな案内を行うことができます。

・転落防止用幌

各車両連結部の隙間に、お客様が誤ってホームから線路上へ転落しないように、転落防止用幌を設置しています。



・運転士異常時列車停止装置

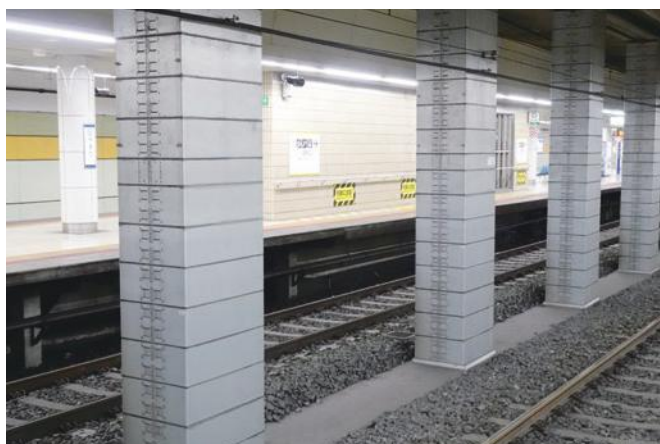
運転士の体調が急変した場合等に備え、ハンドルから手が離れると非常ブレーキが動作する装置を、すべての車両に設置しています。



災害対策

・耐震補強

首都圏直下地震等の大規模地震に備え、高架橋柱の耐震補強や橋梁の落下防止、トンネル中柱の耐震補強等、鉄道土木構造物を補強し、より地震に強い鉄道施設にしました。



矢切駅 耐震補強工事

・塩害対策

2018年の台風24号の塩害に伴い、県内の一部の鉄道事業者では送電線が停電し列車の運転見合せが発生しました。これを受け、当社では2018年度より高圧引込み端末の耐塩型への交換を行っており、これまで179箇所の実施し、2021年度に残り19箇所の交換を行い端末の耐塩化を完了する予定です。

また、江戸川橋梁付近においては、架空高圧配電線のケーブル化を行い塩害及び強風対策を行いました。



交換前



耐塩型端末

・早期地震警報システム

気象庁が発表する緊急地震速報を利用した早期地震警報システムを導入し、地震による被害の抑制を図っています。



・気象観測総合システム

運輸指令所に、気象観測総合システムを配備し、当社線に整備された気象観測装置(地震計3カ所、風速計4カ所、雨量計3カ所、レール温度計は3カ所)から送信された観測データを受信して監視しています。運転規制を伴う規制値を観測した場合、速やかに乗務員へ運転規制を指示し、異常気象時における列車運行の安全確保に努めています。



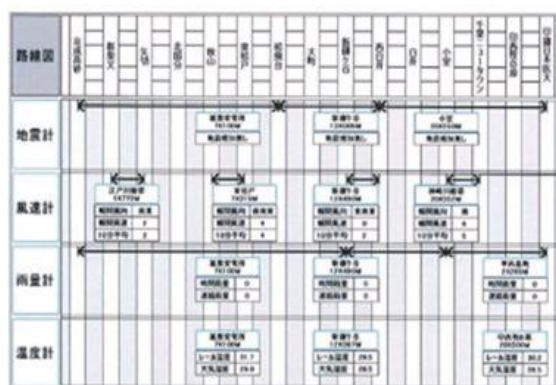
風速計



雨量計



地震計



監視用PC画面

・緊急車両

異常時、速やかに点検・復旧を行うため、緊急車両を保有しており、大規模災害等の発生時に通行禁止区間等の走行が可能になる「緊急通行車両」の届出を行っています。また、駅間で列車が停止した場合等に備え「軌道自転車」を駅に配備し、係員が速やかに現場に駆け付けられる体制を整えています。



緊急車両



軌道自転車

災害発生時の取り組み

・異常時対応訓練

走行中の列車が線路に投棄された自転車数台と衝突し脱線したことを想定し、乗車旅客の避難誘導と脱線車両及び鉄道施設の復旧訓練を実施しました。



・地下駅の火災、停電対策

地下にある矢切駅では火災・停電等の対策として、排煙設備、非常用発電機、屋内消火栓設備等を整備しています。ホームには避難経路図を設置し万一の事態に備えてお客様にお知らせしています。

また、駅係員の対応力強化のため、消防設備の取扱い訓練を毎年実施しています。



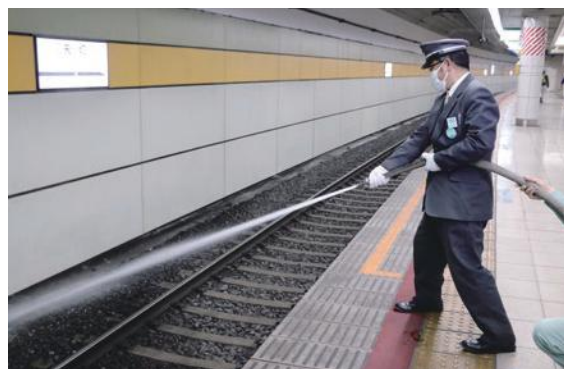
防災総合監視盤



非常用発電機



避難経路図



消防設備取扱い訓練

・防災訓練

地震が発生したことを想定した発災対応訓練を実施し、現場や関係者との情報伝達が迅速かつ的確に行えることを確認しました。



災害対策本部設置訓練

・お客様用備蓄品の配備

大規模災害時等で帰宅が困難なお客様のために、駅に備蓄品（飲料水、食料、アルミブランケット、簡易トイレ）を配備しています。



飲料水



食料



ブランケット



簡易トイレ

・緊急時支援活動用ワッペン

社員が通勤や私用で当社線を利用しているときに、事故や災害等に遭遇し、急遽現場で支援活動を行う際、北総鉄道の社員であることを判別できる目印として、全社員に緊急時支援活動用ワッペンを配付しています。社員は常時このワッペンを携帯し、緊急時には胸元に貼り、支援活動を行います。



・運行状況の情報配信

運行情報は当社ホームページや運行情報ディスプレイ(全駅改札入り口付近に配置)、公式Twitter等を通じてお客様へ案内しています。また、「列車走行位置」の情報をWEB上でを行っています。



運行情報ディスプレイ



「列車走行位置」表示画面

安全に関する教育

・乗務員集合教育

乗務員に対し、事故や車両故障等を想定した「乗務員集合教育」を机上及び実車を使用して実施し、異常時に速やかに対応がとれるよう知識・技能の保有に努めました。



分割・併合訓練

・駅係員研修

保安装置故障を想定した、駅係員による転てつ器（ポイント）の手回し訓練を実施しました。

また、各運動期間中の点呼時に小研修を実施し、事故や異常時等における取扱いについて係員の理解度の確認を行いました。



転てつ器（ポイント）手回し訓練

・脱線復旧訓練

保守用車両が脱線したことを想定し脱線復旧訓練を実施しました。

日頃より異常時における対応、技術・技能の維持のため訓練を行っています。



保守用重機の脱線復旧訓練

・北総鉄道工事安全推進協力会

夏季の輸送安全総点検及び年末年始輸送安全総点検に合わせ、当社技術部全社員と協力会社社員を対象に「技術部安全衛生懇談会」「北総鉄道工事安全推進協力会」を開催し、安全及び衛生に関する事項について周知徹底並びに啓発を図るとともに、横断的に情報交換を行い、安全確保に努めました。



北総鉄道工事安全推進協力会

・施工管理者資格の発行

一定以上の経験、知識・技能を有する協力会社の従事員に、施工管理責任者の資格発行を行い、所属社員と同等の軌道内作業、夜間作業時の施工管理を行ってもらっています。

施工管理責任者の有資格者に対しては、鉄道従事員教育を年1回、更に知識・技能の保持を確認するための資格更新の講習を3年ごとに実施しています。

・安全講演会

東日本旅客鉄道株式会社 千葉支社 安全企画室の講師2名をお迎えし、「JRの安全に関する取り組みについて」と題し講話をいただきました。

また、外部機関等を利用した研修・講習会に積極的に参加し、職員の資質および安全意識の向上に努めました。



安全講演会

・サービス介助士の資格取得

高齢のお客様やお体の不自由な方をはじめ、すべてのお客様に安心してご利用いただけるよう、「サービス介助士」の資格を駅係員は取得しています。2020年度末現在、駅係員の100%が資格を取得し、胸章に「サービス介助士」を表示しています。

※『サービス介助士』とは、NPO法人「日本ケアフィットサービス協会」が認定する資格です。



・盲導犬ユーザー等対応講習

駅係員を対象に盲導犬ユーザーや視覚障がい者の方を講師に迎え、お声掛けや手引きなどの対応について講習を実施しました。



乗務員の健康状態の確認

乗務前に写真記録付きアルコール検知器を使用し、酒気を帯びていないことを確認後、点呼執行者との対面点呼により健康状態の確認を行っています。また、SAS（睡眠時無呼吸症候群）スクリーニング検査を実施し、SASと疑われる場合には医師の診療を受けています。



写真記録付アルコール検知器による測定

事故等の発生状況

2020年度においては、当社の有責事故及びインシデントは発生しておりません。

なお、京成電鉄青砥駅構内で発生した列車脱線事故につきましては、現在運輸安全委員会において調査中です。

今後も引き続き、お客様に安心して電車をご利用いただけるよう、安全を最優先に取り組んでまいります。

京成電鉄青砥駅構内での当社所属車両の列車脱線事故について

発 生 日 時：2020年6月12日10：15頃

発 生 場 所：京成電鉄青砥駅構内(上り線)

列 車 番 号：第1022N列車(普通 京成高砂発羽田空港第1・第2ターミナル行)

編 成：北総鉄道所属車両7800形 8両編成

概 況：当該列車が青砥駅1番線進入時、前6両がホームに進入した時点で7両目第2台車の脱線、及びパンタグラフが破損しました。

なお、当該車両に乗車していたお客様に負傷者はいませんでした。

原 因：運輸安全委員会にて調査中

当面の対策：【脱線事故発生後、検査の精度向上のための実施事項】

- ・検査における台車枠表面の清掃を実施し、打音検査、目視検査による点検を強化する。
- ・チェックシートの作成(作業手順書の具体化)
- ・作業員2名体制で検査を行うことでダブルチェックを実施
- ・原因が判明するまで、同一構造の台車は2年に1回磁粉探傷検査を実施する。



磁粉探傷検査



定期検査のダブルチェック（2名体制で実施）

8. 新型コロナウイルス感染予防に対する取り組み

当社は、新型コロナウイルス感染予防のため、次の対策を行っています。(2021年6月現在)

＜お客様に対する主な取り組み＞

- ・改札口に飛沫感染防止用シールドの設置やアルコール消毒液の設置
- ・券売機や精算機の抗ウイルスコーティング加工や定期清掃による階段やエスカレーターの手すりなどの消毒
- ・車内の窓開けによる換気
- ・車内の抗菌・抗ウイルス加工(シート、つり革、手すりなど)
- ・駅構内や車内及び当社ホームページに感染予防のための啓発ポスターの掲出

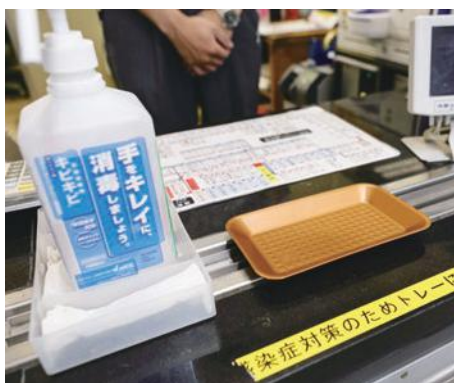
＜社員に対する主な取り組み＞

- ・お客様と接する際のマスク着用、手洗いやうがい、アルコール消毒液による手指消毒の徹底
- ・出勤前及び出勤時の検温並びに体調確認の徹底
- ・駅事務室の換気や複数の社員が触れる主な箇所の消毒の徹底

お客様におかれましても、手洗いやうがい、咳エチケットのほか、時差通勤など混雑時間帯を避けたご乗車にご協力をお願い申し上げます。



改札口の飛沫感染防止用シールドの設置



アルコール消毒液・抗菌コイントレの設置



駅券売機の消毒作業



車内の抗菌・抗ウイルスコーティング作業



感染症対策ポスター

9. ご利用のお客様へのお願い

・電車を安全にご利用いただくために

1. かけ込み乗車はおやめください

かけ込み乗車は、列車遅れの原因となるだけでなく、思わぬケガや事故にもつながり、大変危険です。余裕をもったご乗車をお願いいたします。



2. ホームでは黄色い点状ブロックの内側をお歩きください

列車から降車されたお客様が、ホームを歩行中に転倒し発車直後の列車に接触する事故や線路に転落する事故が発生しております。ホームでは列車から離れ、黄色い点状ブロックの内側をお歩きください。

3. 駅やホームでの「ながら歩き」はおやめください

歩行中にスマートフォン等を操作する「ながら歩き」は、お客様同士の接触やホームから線路への転落のおそれがあり、大変危険ですのでおやめください。



4. 転倒、転落にご注意ください

ご高齢のお客様や酔ったお客様の階段やコンコース等での転倒並びにホームから線路への転落が発生しております。ホームから線路への転落を発見した場合は、直ちに、お近くの「非常停止ボタン」を押し、絶対に線路に降りないでください。

5. 戸袋に手を引き込まれないようにご注意ください

ドアが開く際は、お子様の手やカバン等が戸袋に引き込まれないようにご注意ください。

6. 不審物を発見した場合はお手を触れずにお知らせください

駅構内や車内で不審物を発見された場合は、お手を触れずにお近くの駅係員または乗務員、警戒中の警備員にお知らせください。

7. 線路内に立ち入らないでください

線路内は大変危険です。絶対に立ち入らないでください。

8. エスカレーターご利用のお願い

エスカレーターは事故防止のため、急停止することがあります。

必ず手すりにつかまり、黄色い線の内側にお乗りください。



9. お声かけサポートのお願い

お困りになられている方をお見かけになられた場合は、お声かけにご協力をお願いいたします。



**安全報告書に関する
お客様のご意見をお寄せください**

ホームページ内ご意見フォームまで
【北総鉄道ホームページ】 <http://www.hokuso-railway.co.jp>



北総鉄道株式会社
Hokuso- Railway Co.,Ltd.

千葉ニュータウン鉄道株式会社
Chiba Newtown Railway Co.,Ltd.

編集・発行：北総鉄道株式会社 安全推進担当
2021年7月発行